

2009年3月27日
株式会社日立製作所
日立電線株式会社

日立がNTTドコモのイーサネット伝送装置ベンダーに選定され検証を開始 LTEのモバイルネットワークに適用予定

株式会社日立製作所(執行役社長:古川 一夫/以下 日立)は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:山田 隆持/以下 NTTドコモ)から、LTE^(*1)のモバイルネットワークに適用されるイーサネット伝送装置ベンダーに選定され、このたび、評価機を納入し、検証を開始しました。

日立は、レイヤー2 スイッチ^(*2)の国内トップメーカーであり、NTT グループの広域イーサネット分野で実績のある日立電線株式会社(執行役社長:佐藤 教郎/以下 日立電線)のイーサネットスイッチ「Apresia 16000」を提案し、これが評価されて、今回のベンダー選定となりました。

(*1)LTE(Long Term Evolution):標準化団体 3GPP(3rd Generation Partnership Project)で仕様が作成された移动通信方式。下リンクで、最大 100Mbps 以上の伝送速度が実現される。NTTドコモが Super3G として提唱したもので「3.9G」と位置づけられる。

(*2)レイヤー2 スイッチ:ネットワークを中継する機器のひとつで、パケットに宛先情報として含まれる MAC アドレス(ネットワーク機器のハードウェア固有の物理アドレス)で中継先を判断し、中継動作を行うスイッチ。

イーサネット伝送装置は、従来の携帯電話での音声通信のみならず、将来的には LTE の 100Mbps を超える高速データも伝送可能とする装置です。

イーサネット伝送装置を構成するイーサネットスイッチは、端末から送られてきたデータを解析して、あて先を検出し、送り先の端末だけにデータ送信する役割をします。このため、ネットワーク全体の負担を軽減することができ、セキュリティ向上を可能にします。また、中継の際に一時的にデータを蓄えることにより、速度の違うネットワーク同士の接続も可能としています。

今回、日立が提案した「Apresia 16000」は、省スペースな筐体に、レイヤー2 ネットワークで有効な機能である、高度なループ回避機能^(*3)、高速切替機能、リング冗長プロトコル^(*4)などを有します。これらの他社に先行したネットワークの高信頼化に必要な機能が認められ、NTTドコモに選定されました。

(*3)ループ回避機能:送信したデータが網内を無限に巡回することを回避する機能。ループが発生すると、網内で無限に巡回するデータが増殖し、トラフィックを圧迫する。

(*4)リング冗長プロトコル:通信経路を環状(リング)に構成し、故障発生時に、自動的に経路を右回り、左回りと切り替える。レイヤー2リングにおけるネットワーク内の故障発生点を迂回し、断絶時間を最小とするプロトコル。

今後は、日立の光トランスポート分野における長年の納入実績と、日立電線のレイヤー2 スイッチについての技術分野のノウハウを融合させ、モバイルネットワークに最適なシステムの提供に貢献していきます。

Apresia シリーズ製品

URL: <http://www.apresia.jp/>

他社商品名称に関する表示

当リリースに記載されている社名・製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

本件に関するお問い合わせ

株式会社日立製作所 情報・通信グループ ネットワークソリューション事業部

NTT 営業本部 [担当:岡村]

〒140-8572 東京都品川区南大井六丁目 26 番 2 号 大森ベルポート B 館

URL: <http://www.hitachi.co.jp/network/contact/>

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
